

秋深まり色冴える，サロベツ原野

豊富町

写真撮影位置は，海岸砂丘の上を通る道々106号上にある（図-1）。

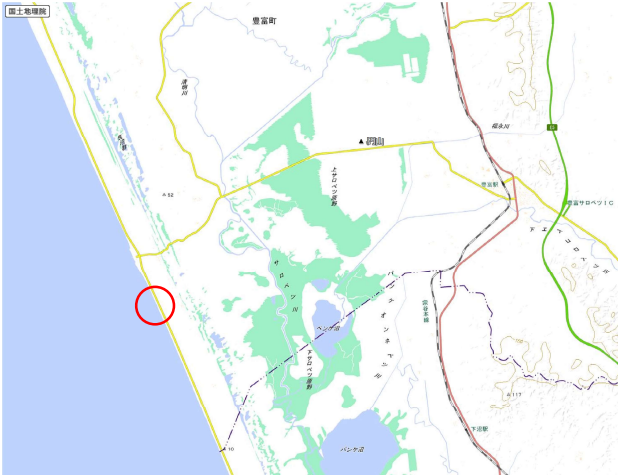


図-1 サロベツ原野周辺（一部）の地形図と写真撮影位置（赤丸）。

同様に Google Map 上に撮影位置を示す（図-2）。

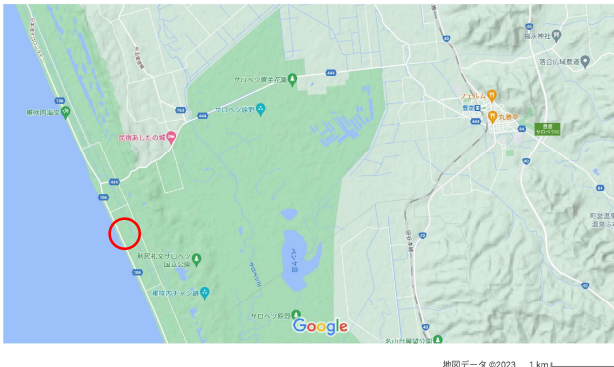


図-2 周辺の Google Map と撮影位置。

サロベツ原野は宗谷丘陵の西側日本海沿岸に発達する沖積平野である（図-3）。

サロベツ原野周辺の地形分類図を示す（大平，1995）（図-4）。

完新世初期の閉鎖的な内湾が縄文海進後に氾濫原を経て湿原化したものとされ，現在ではラムサール条約にも登録された日本最大の高層湿原域を持つ国立公園となっている（酒井ほか，2011）。

近年は，海岸砂丘とその間の砂を採掘し，その

跡を牧草地に転換する動きが活発になり，美しい原野の景観が大きく失われつつある（図-5）。

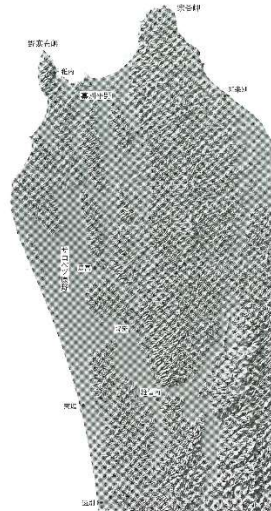
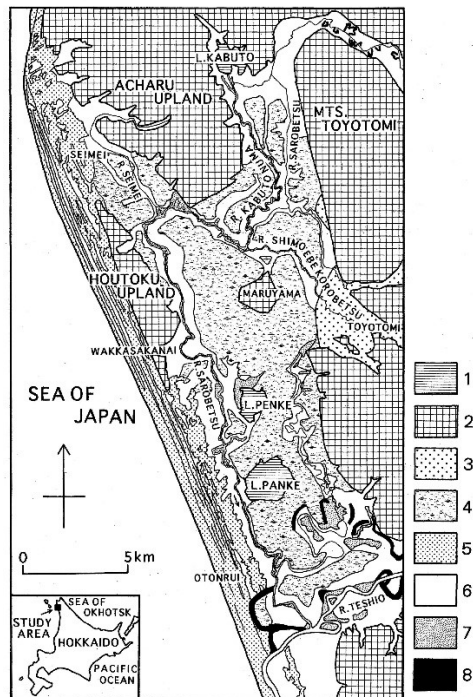


図4-1-1 宗谷丘陵の地形 [宗谷丘陵地誌 (3巻) の1冊-25Pにより写し-変更せず]

図-3 宗谷丘陵の地形，日本の地形 2 北海道より。

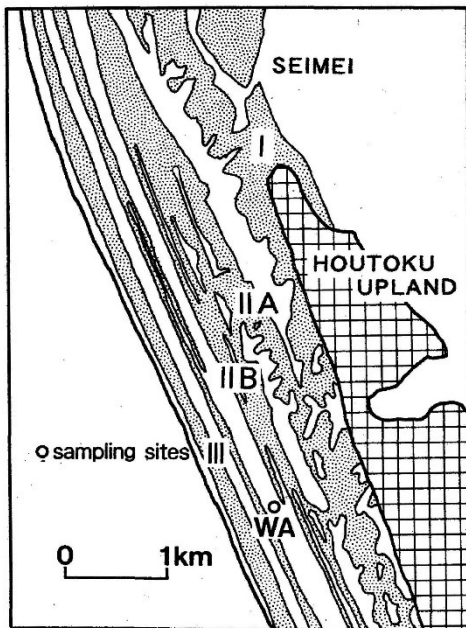


第1図 サロベツ原野の地形分類図
Fig. 1 Geomorphological map of the Sarobetsu Lowland
1. lake 2. mountain, hill and terrace 3. alluvial fan 4. peatland 5. coastal sand dune ridge 6. floodplain (partly lower peatland) 7. natural levee 8. old river channel

図-4 サロベツ原野の地形分類図（大平，1995）。

採掘されている砂は天塩川が運んできたもので、コンクリートの粗骨材に使われる良質な砂として貴重とされている。

写真は、図-5の第2砂丘列と第3砂丘列との間の浜堤列一堤間湿地、および背後の宗谷丘陵西縁が映っている。



第2図 海岸砂丘列の区分
砂丘の区分は阪口(1974)による。

Fig. 2 Classification of the coastal sand dune ridges

図-5 海岸砂丘列の区分(大平, 1995).

サロベツ原野の形成に関しては阪口など1950年代から様々な研究が行われてきた。

酒井他(2011)によると、沖積平野は主に天塩川沿いに発達し、沿岸部がサロベツ原野、内陸側がウプシ原野と呼ばれる。海岸沿いには縄文海進期の海岸段丘砂州を基礎とした砂丘列帯が見られる。沖積層の堆積システムは、完新世初期がバリアラグーンシステム主体で、最大海進後が浜堤列一外浜システムと蛇行河川システムが主とされる(図-6)。

参考文献

大平昭夫(1995);完新世におけるサロベツ原野の泥炭の形成と古環境変化. 地理学評論, Vol.68,pp695-712.
酒井利彰・井岡聖一郎・石島洋二・五十嵐敏文(2011);サロベツ原野における沖積層の地質解析. 応用地質

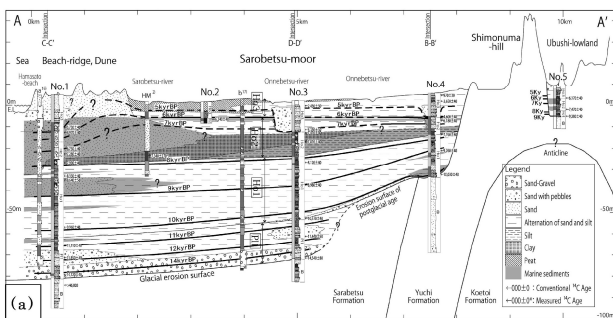


図-6 周辺の地質断面図(酒井他, 2011).